

- 「天井クロス貼り」-----特に薄いクロス・薄い紙貼りの場合は必ず、下地捨貼り・(ふくろ貼り).とする。計測・計算の数値、設計数量を記載する。
(参考)-----クロスの必要数値(リポート50mm.以内の場合)を基準として。
$$\text{設計数量} \times 1.15 = \text{必要数量(端数切上げとする)}$$

(注意事項)-----クロス貼の場合、天井廻り縁天端に成は少さめの底目地加工をを施すこと。
- 「天井下地合板・ボード(捨張り合板・ボード)」-----計測・計算・割付けによる。数値、必要枚数を記載する。
(参考)-----合板・ボード3尺×6尺(910×1820mm)の場合。
$$\text{設計数量(m}^2) \times \frac{2}{3}\text{m}^2 = \text{必要数量(端数切上げとする)}$$

$$\text{設計数量(m}^2) \div 15\text{m}^2 = \text{必要数量(端数切上げとする)}$$
- 「左官工事による塗り仕上げ」-- } 計測・計算による算出数値(m・m²)を。
●「塗装工事による塗り仕上げ」-- } 設計数値として記載する。
●「その他・各工事の仕上げ」-- } (割付計算が出来る仕上げ材の場合は、
※詳細については後編にて記載する。必要数値や所要数量を算出する。)

◎ 内部面状部位のまとめ

- 「内部面状部位」の計測・計算の手順として、床面・壁面・天井面・の表面の仕上げ面積をまず算出し、仕上げ材種により、「設計数量」・「必要数量」・「所要数量」を算出し、次に下地材・捨材(合板・ボード・下地材)は仕上げ面積を基準として各項に記載の(参考資料数値(係数))より、「必要数量」・「所要数量」を算出する。
- 壁面積(設計数量)のチェックに付いて。
 1. 内壁全面積(設計数量)に付いて、床面積が30~45坪(100~150m²)位の場合
床面積 × 3 = 壁面積(設計数量)を基準平均値とする。
 2. 内壁全面積(設計数量)に付いて、床面積が100~150坪(330~500m²)位の場合
床面積 × 25~26 = 壁面積(設計数量)を基準平均値とする。
※ 6~7%以上の違いがある場合は、再積算チェックの必要あり。
- 壁下地胴縁の算出に付いて。
壁下地に胴縁材が必要する壁面(設計数量) 1m² = 6~6.5m (胴縁間隔1.2尺(360mm) 縦胴縁含む)。延長さを基準平均延長さとする。
- 天井張り下地野縁の算出に付いて。
 1. 合板・ボード類等の場合、野縁組1.5尺井(450mm井)(尚吊木を含む)
天井面積(m²) × 8m = 野縁延長さを基準平均値とする。または使用材料が3×6尺(910×1820mm)の場合1枚に12mの計算方法でもよい。各部屋の寸法にて、3m・4m(定尺)使用を計測 計算する。
 2. 和室天井羽重ね・底目地(拵えすみ)の場合、野縁1.5尺=(450mm=).(尚吊木を含む)
天井面積(m²) × 4m = 野縁延長さを基準平均値とする。